

青空教室活動報告書

2008 年度現代 GP 採択企画

1. 計画

私たちがやりたいことは2つ。1つ目は小金井祭で使う間伐材割り箸（通称エコ箸）のリーフレットを作ること。これはエコ箸を購入してくれた団体に、エコ箸とは何なのか、間伐とはどういうことなのかを理解してもらうことを目的として制作する。2つ目は小金井祭にてリユース食器を導入すること。リユース食器とは、使い捨てないで洗って何度も使う食器のこと。小金井祭で出るごみの量は多すぎると考えた私たちは、ごみを減らすために、使い捨ての容器を使うのではなくリユース食器を使えばごみを減らせると考えた。この2つの計画を小金井祭で実施するために、動き出すことにした。

2. 交渉

2つの計画は共に小金井祭にて行われること。なので、まず小金井祭実行委員会と話をすることから始めた。エコ箸を団体に販売すること、購入してくれた団体にリーフレットを配ることは特に問題なく行われることになった。リユース食器導入に関しては、実行委員会は難色を示した。理由は、

①計画を実行委員会に持ってくるのが遅すぎる。今から今年度の小金井祭にリユース食器を組み込むのは運営的に不可能。

②食中毒など衛生面の問題が発生した場合、実行委員会で責任をとれない。

ということだった。また、実行委員会が保健所に確認を取ったところ、臨時出店の場合容器は使い捨てに限る、というのが衛生面での条件だった。保健所の許可が下りず、リユース食器導入計画は断念せざるを得なかった。

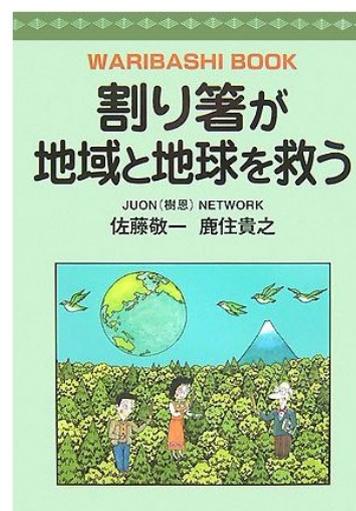
3. 調査

でも、諦めきれない！！というのが私たちの本音。今回はリユース食器を導入できなくても、いずれ導入できるかもしれない。どうしたら導入できるかを、他のイベントの例を参考に調べてみよう、ということで、私たちの活動は「リユース食器導入に向けての調査」をすることになった。加えて、エコ箸を販売し、リーフレットを作るからには自分たちも間伐材割り箸について知らなければいけない、ということで、間伐材割り箸についても勉強することにした。

【間伐材割り箸に関する書籍の要約】

まず、『割り箸が地域と地球を救う／樹恩ネットワーク 佐藤敬一、鹿住貴之』を購入してみんなで読み、要約していくということを行った。これによりわかったことは、

- ・国産材割り箸や間伐材割り箸は使うことで森林の手入れにつながる。
- ・輸入割り箸のほとんどが中国産で、原産地中国では木材不足の問題がある。
- ・間伐材割り箸の生産は障がい者の仕事づくりになっている。
- ・大学生協でも、ISO14001 認証獲得を目指して間伐



材利用の促進を検討している。

- ・日本で割り箸使用が増えたのは、外食産業の発達、円高による輸入増などが原因である。
- ・中国の割り箸は漂白剤や化学物質の残留問題がある。
- ・間伐材は板や柱として製材され、製品にならない端材が割り箸の原材料となる。
- ・使用した割り箸は家具の面材料などに再利用される。
- ・使い捨てはよくない、と割り箸を敬遠する人も多い。

【各自調べ学習】

各自調べ学習を行った。リユース食器に関して、間伐材割り箸に関して、プラス、二つの事柄両方にリンクしている「マイ箸」について、それぞれ自分が興味のあることを調べていくことになった。挙がったテーマ（タイトル）は、

- 割り箸のこと、知ってる？
- コンビニ各社の割り箸比較！
- 間伐材とは…？
- 退耕還林—中国における植林事業—
- 間伐材の利用
- 塗り箸（マイ箸）を持ち歩く
- ゴミの少ない小金井祭に向けて～リユース食器導入を考える～
- 東洋大学白山祭でのエコプロジェクト
- 小金井市の取り組み—商店街でリユース食器！！—

これらのことを各自調べ、最終的に小金井祭でパネル展示する方針になった。調査方法は文献調査、インタビューなど。

東洋大学の学園祭では、店がリユース食器に食品を盛って、お客さんは食べ終わったらすぐに食器を回収ボックスに入れ、スタッフが食洗機を使用して洗い、店に食器を補充し、繰り返し使う…というやり方をとっている。食洗機を使うということで、保健所は OK を出している様子。東小金井北口商店会では、リユース食器のほかにマイ食器の持参を呼び掛けている。実際にリユース食器を導入している例が東京都内にあるのだから、小金井祭でできないことはないはず、と考えたり…。

割り箸に関しては、コンビニで配っている割り箸もコンビニによって違うことが分かる。国産材を使っているもの、漂白剤を使っているものなど、各社の取り組みは様々。

割り箸を使うのか、マイ箸を使うのかは各人の自由。どちらも良い面もあれば悪い面もある。どちらが正しいというのではないけれど、パネルを見て何らかの行動に移してくれることを目標にパネルを作った。だから、私たちが「こうしたほうがいい！」と断言したパネルはない。私たちが方向性を示すのではなく、パネルを見て考えてもらうことを目的としている。

【リーフレット作成】

エコ箸を購入していただいた団体に、間伐材割り箸について理解してもらうために作成したリーフレット。わかりやすいように、マンガ形式にした。完成したリーフレットを、エコ箸購入団体に配った。



◀▼リーフレット「素敵なものが完成しました！」



【間伐材の模型】

パネル展示するだけではつまらない！！ということで、間伐について分かりやすい模型を製作することになった。間伐する前の木が鬱蒼として弱くてひよろっとした木ばかり育った様子と、間伐した後の整備されて太くて丈夫な木が育った様子を伝えたい。枝を拾い、紙粘土で葉をつけ、色を塗って木の出来上がり。



▲間伐材の模型「一つ一つの木の葉に凝っています」

4. 小金井祭に参加

青空教室では、作成したパネルや模型を教室内に展示して、お客さんや学生に見てもらった。旅行会

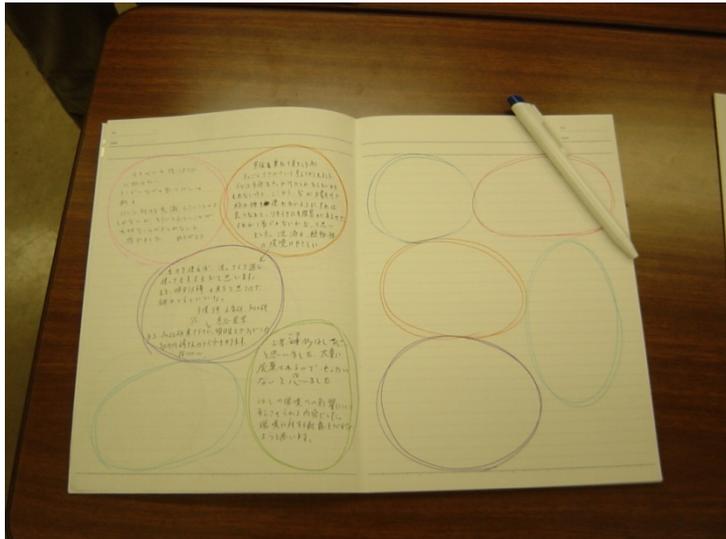
社の方や受験生、クレープを売りに来た大学生、子どもたちが来てくれて、思ったことを感想ノートに書いてもらう形にした。子どもたちは間伐の模型に興味を持ってきて、実際に木を抜いて間伐をしていた。展示を見に来てくれたお客さんは多いとは言えなかったが、熱心に展示を見てくださいる人が多く、帰り際に意見を言ってくれたり、励ましの言葉をかけていただいた。



◀展示教室の様子①
「黒板の装飾もがんばりました」



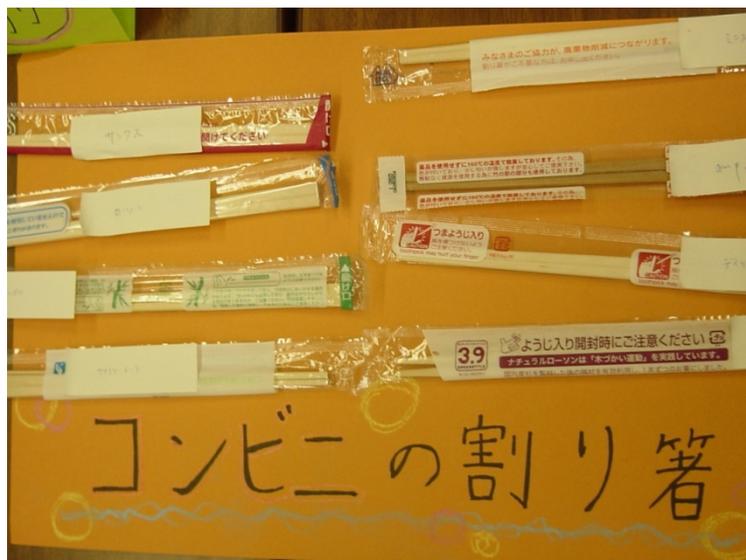
▶展示教室の様子②
「パネル力作です」



◀感想ノート

「様々な意見・感想をいただきました」

また、調査の際に使った資料なども机に置き、自由に見ることができるようにした。



▲コンビニ調査でもらった割り箸「今まで気づかなかった身近なこと」

さらに、展示活動とは別にゴミステーションのナビゲーターの仕事を小金井祭実行委員会と共同で行った。

5. 全体を振り返って

青空教室の計画は、リーフレット作成は順調に進んだものの、リユース食器導入は初期の段階で今年では断念せざるを得なかった。しかし、今年だけでも来年はできるかもしれないという希望があって最後まで活動で来た。今回は自分たちが勉強する良い機会になったと思う。自分たちの知識を増やすことができたし、それを他の人にも示すことができた。インタビュー調査では外部とのつながりもできた。

一番大きいのは、私たちのような団体がこのような活動を行っていることを、小金井祭実行委員会をはじめ先生方や大学関係者にもアピールできたことだろう。来年、リユース食器を導入できるかわからないが、今回の活動が下積みになって良い方向に持っていけたらいいと思う。

G Pのお金は、間伐材の書籍代、リーフレット作成の印刷代、模型作成の紙粘土代、のりパネル代に使わせていただいた。リユース食器導入にかかるはずだったお金を、粘土とパネルに使った。

以上です。